

環境配慮型製品の充実

シチズングループは、製品が環境に与える影響を強く認識し、信頼性や安全性と同様に、製品の環境品質の向上に努めています。

環境配慮型製品の拡大への取り組み

シチズングループでは、「環境配慮型製品」への取り組みを進めています。開発段階から多項目の環境製品アセスメント(評価)を実施し、「省資源・省エネルギー」「再資源化(リユース・リサイクル)」「長期使用性」「環境保全性(有害化学物質管理)」「環境情報の提供」「包装材」などの評価基準を、すべて満たした製品を環境配慮型製品に認定しています。2008年度からは、さらに厳しい視点でアセスメントを実施する「スーパー環境配慮型製品」の評価基準を設けて、取り組みを進めています。

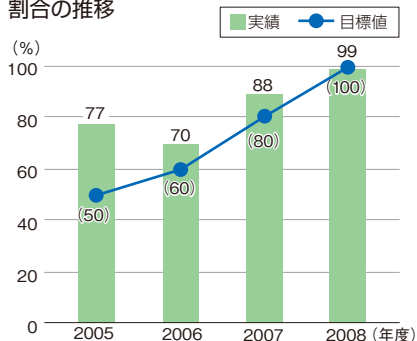
● 環境配慮型製品の割合の推移

シチズングループでは、新規モデルに占める環境配慮型製品の割合を2008年度中に100%にすることを目標に取り組みできました。本格的に取り組みをスタートさせた2005年度以来増加し、2008年度は99%の実績となりました。



歩数計 TW700

新規モデルに占める環境配慮型製品の割合の推移



環境配慮型製品の評価基準
<http://www.citizen.co.jp/social/kankyo/ecolabel.html>

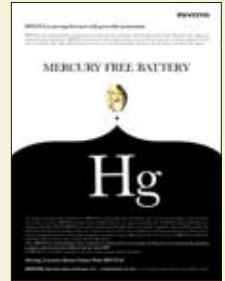
事例紹介

シチズン時計

水銀レス電池への全面切り替え

米国メイン州では2011年より水銀を使用したボタン電池、および電池を組み込んだ製品の販売が禁止されます。環境対応への企業姿勢として、2008年末までにクオーツ式ムーブメント、および完成時計に組み込まれるボタン電池を全面的に無水銀化することに決め、すでに2009年1月生産分より実施しています。

光発電時計エコドライブは当初から水銀を使用していませんが、今回の全面無水銀化は、エコドライブ以外の完成時計、Q&Qブランド、ライセンスブランドにおいても適用されています。外販ムーブメントは、2005年に業界ではじめて無水銀電池を搭載して販売を始めましたが、今回の取り組みにより、すべての有水銀電池を無水銀電池に切り替えたこととなります。



「EURO STAR」誌に掲載した水銀レス電池への全面切り替えの広告

エコプロダクツ2008に出展

シチズングループは、「エコプロダクツ2008」に出展しました。今年はシチズンの環境に対する取り組みの紹介のみにとどまらず、来場者の方々のコミュニケーションを心がけたエコアクションを実施しました。



エコプロダクツ展
<http://www.citizen.co.jp/social/kankyo/ecoproducts-exhibition.html>

事例紹介

シチズン電子

グリーン調達への推進

環境配慮型製品の実現への重要事項として、環境品質(製品への有害化学物質の非含有)の保証に取り組んでいます。有害化学物質を「入れない」「使わない」という、源流管理を基本とした方針のもと、とくに設計段階では「グリーン部材のみの採用」、調達段階では「グリーン部材のみ」を、「グリーン取引先のみ」から調達するように推進してきました。このために、2003年には3つの管理基準を構築し、運用をスタートさせました。部材データ、取引先データなどのデータベースシステムの導入、蛍光X線分析装置を用いた調達部材の定期的な検証の導入、法規制とお客様の要求への対応についての学習会などを、適時実施してきました。これらの活動を通して、環境品質成果を挙げ、お客様から高い評価をいただけてきました。

当面のREACH規則の対応も含め、今後も法規制やお客様の要求に適切に対応ができるよう取り組んでいきます。



REACH規則の学習会

LCAへの取り組み

シチズングループでは、環境負荷の把握と低減を促進するため、製品の企画検討、設計変更、工程改善などにLCAデータを算出し、活用をめざしています。



LCAの取り組み
<http://www.citizen.co.jp/social/kankyo/lca.html>